

F-22 アメリカの大学における「生活科学」の実情調査 一被服関連の学科目について
大阪市大生活科学部 広田輝次

アメリカにおいては数年前よりペンシルバニア州立大学、コーネル大学、ミシガン大学などをはじめとする大学の家政学部 College of Home Economics がそれぞれ名称を Human Development あるいは Human Ecology などと変えて、学問の目標、研究、教育の体制に大改革を行っているが、これら「急進的」な大学だけでなく保守的といわれるカンサス州立大学、コロラド州立大学のような大学においても家政学の教育内容に大きい修正を加えている。これらアメリカの有力大学を訪問して 1974 年度の実情を調査した結果と各大学の特徴について被服学の分野を中心として報告する。

コーネル大学の「被服学」は Human Ecology 学部の Design and Environmental Analysis 学科の中にあるが、たとえばこの関連学科目を示すと次の通りである。

(共通科目) 基礎デザイン、デザイン理論（デザイン、材料・織物、人間および社会的要因）

(専向科目) 環境分析 I、環境分析 II、環境心理学、近接環境の心理学、居住環境計画決定のための環境的基礎、消費者行動、服装産業、衣服材料科学、流行および職業服におけるテキスタイル、デザインの基礎、デザイン・形状・構造・空間、衣服デザイン、衣服デザインアローナ、織物の材料、纖維材料化学、服装史 I、II、III、形態の研究、製造、織物製作デザイン、テクスイン・布地のプリントの基礎、テキスタイルデザイン、衣服造形のための製図、基礎衣服構成実習、など。